

平成 30 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における横堤中学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成 30 年 4 月から 7 月末までの期間に、2 年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- 国・公・私立学校の中学校第2学年，中等教育学校第2学年，特別支援学校中学部第2学年の原則として全生徒
- 横堤中学校では，2年生 115名

3 調査内容

- 生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査(以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様)
中学校調査では，以下の種目を実施する。
[8種目] 握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，持久走，20mシャトルラン，50m走，立ち幅とび，ハンドボール投げ(※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択)
 - イ 質問紙調査
運動習慣，生活習慣等に関する質問紙調査(以下「生徒質問紙調査」という。)を実施する。

平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大阪市立横堤 中学校

生徒数

115

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	31.76	32.52	43.58	54.94	—	89.96	7.83	192.42	21.70	45.71
大阪市	29.05	27.74	41.48	52.14	410.43	85.66	8.06	192.58	20.29	41.72
全国	28.84	27.36	43.44	52.24	392.65	86.06	7.99	195.62	20.55	42.32
女子	25.73	22.62	44.10	44.49	—	63.33	8.78	169.27	13.38	50.46
大阪市	24.06	23.91	44.95	47.47	304.56	59.88	8.89	168.48	12.96	50.14
全国	23.87	23.87	46.22	47.37	286.85	59.87	8.78	170.26	12.98	50.61

結果の概要

男子においては、立ち幅跳びで大阪市平均よりも下回りましたが、その他の種目および体力合計点では、大阪市平均や全国平均を上回りました。

女子においては、上体起こし・長座体前屈・反復横とびで大阪市や全国平均を下回り、20mシャトルランおよびハンドボール投げでは、大阪市平均や全国平均を若干上回り、全体としてはほぼ全国平均並みとなっています。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

保健体育科の授業では、柔軟性や瞬発力を向上させるためにストレッチ運動に力を入れたり、生徒の動きをビデオ撮影し確認するような工夫を行いました。また、9月にはトップアスリートを招いて、アスリートの体験談やスポーツの厳しさ、楽しさを学びました。高校出前授業では、希望生徒に対してスキル向上や興味・関心を引き出す授業を行いました。

今後は、「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」「できるようになるためのコツは何か」を、ポイントを押さえ、分かりやすい授業展開に努めるとともに、専門的指導者や他校種との連携で運動やスポーツに関する講習を行い、最後までやり遂げる気持ちや失敗を恐れずに挑戦する気持ちを高めるとともに、互いを認め、助け合い、失敗を恐れずに取り組めるように、教職員総体で見守り、育む指導体制を確立します。また、学校給食や教科と連携した学習を通じて、食育指導を推進したり、専門的指導者やPTAとも連携した食育講座や実習などにより、食事を取ることの大切さを感じてもらえるよう取り組みます。

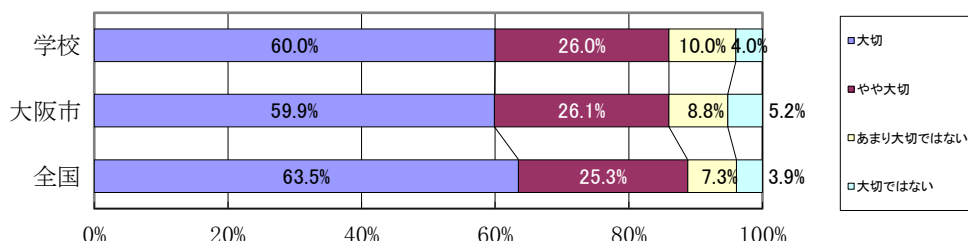
運動やスポーツについて（男子）

質問
番号

質問事項

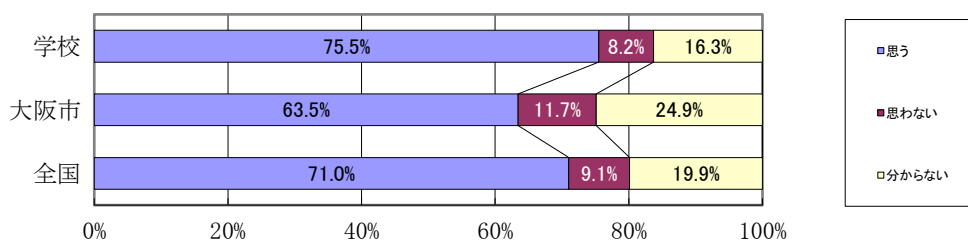
3

あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか。



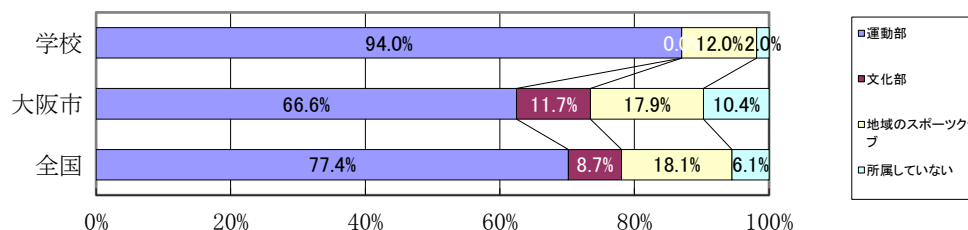
4

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



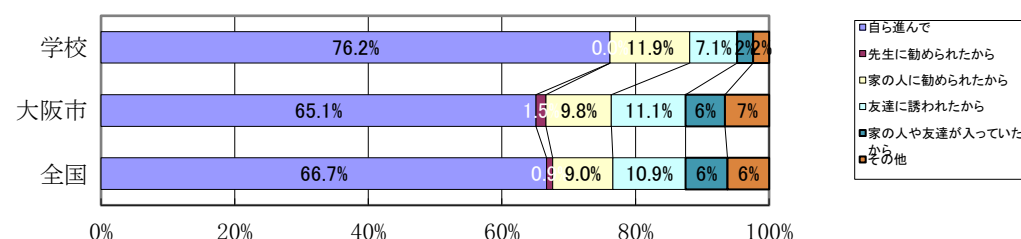
5

学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。



5-3

質問5で、「運動部」「地域のスポーツクラブ」と答えた人は、そこに入った一番強いきっかけはどのようなことですか。



成果と課題

部活動や地域スポーツクラブに自ら所属する生徒が多く、かなりの割合で、卒業後に、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う生徒が見られます。運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツが大切であると回答する生徒は、全国よりも低い傾向にあり、スポーツの大切さを感じてもらえるような取り組みや関わり方が必要です。

今後の取組

専門的指導者やトップアスリートから学ぶ機会や、異校種との連携による体験活動を増やしたりするとともに、部活動においても、適切な休養日の設定や、様々なスポーツへの興味付けを行う効果的な指導力の向上に努めます。

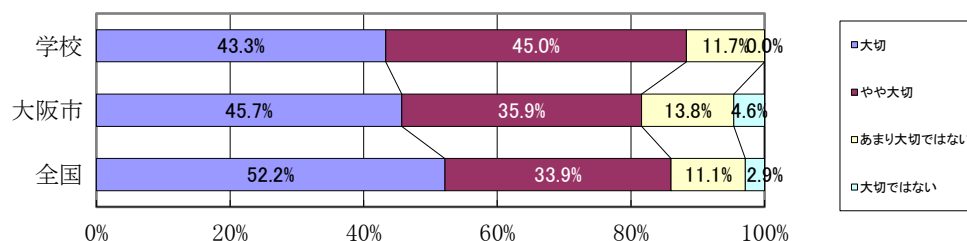
運動やスポーツについて（女子）

質問
番号

質問事項

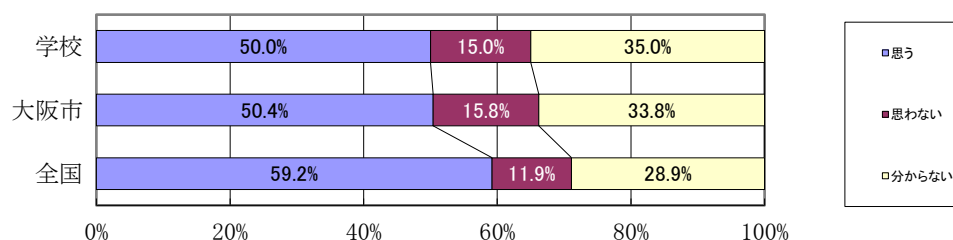
3

あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか。



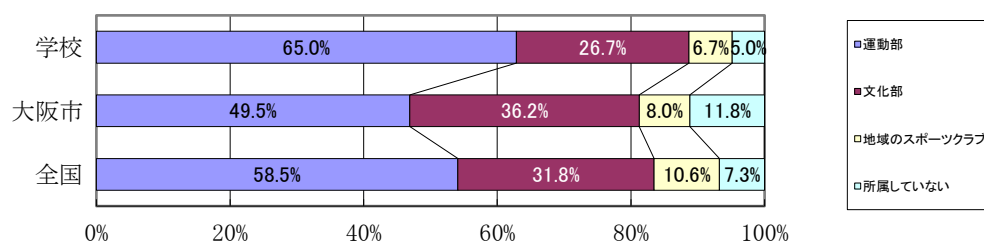
4

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



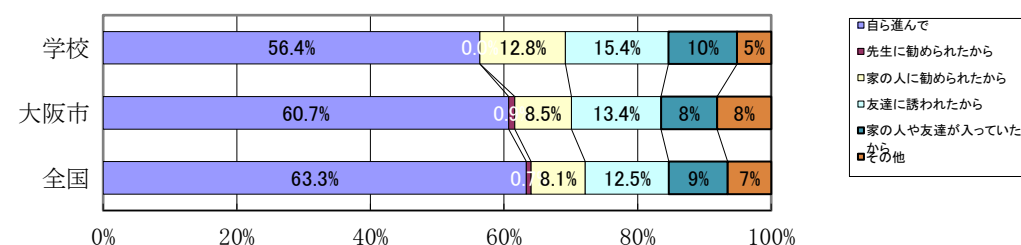
5

学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。



5-3

質問5で、「運動部」「地域のスポーツクラブ」と答えた人は、そこにいった一番強いきっかけはどのようなことですか。



成果と課題

部活動や地域スポーツクラブに自ら所属する生徒が多くいますが、自ら進んで運動部や地域のスポーツ活動に入った生徒、スポーツが大切だと思う生徒、卒業後に自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う生徒の割合は低いようです。スポーツの大切さを感じてもらえるような取り組みや関わり方が必要です。

今後の取組

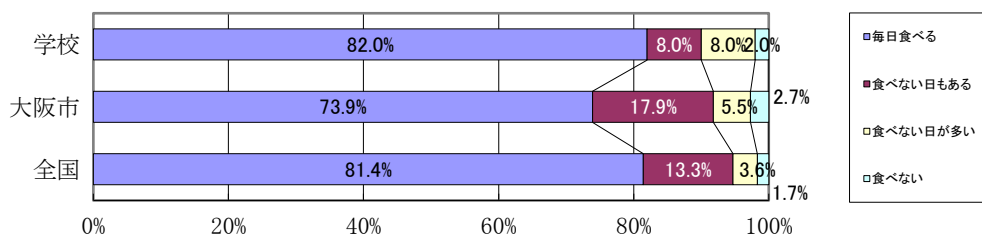
専門的指導者やトップアスリートから学ぶ機会や、異校種との連携による体験活動を増やしたりするとともに、部活動においても、適切な休養日の設定や、様々なスポーツへの興味付けを行う効果的な指導力の向上に努めるとともに、保護者や地域に対しても、運動やスポーツについての理解・協力を進めていきます。

ふだんの生活について（男子）

質問 番号 質問事項

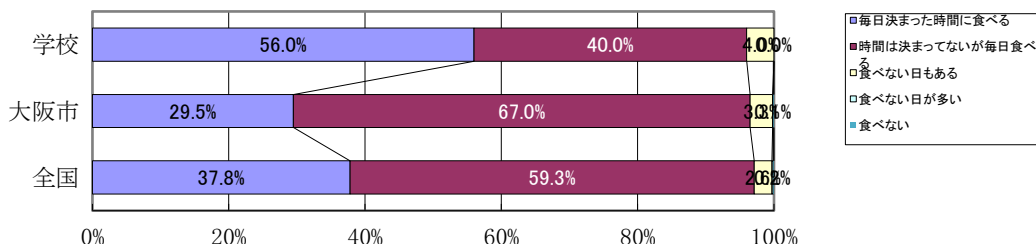
7

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日も含める)



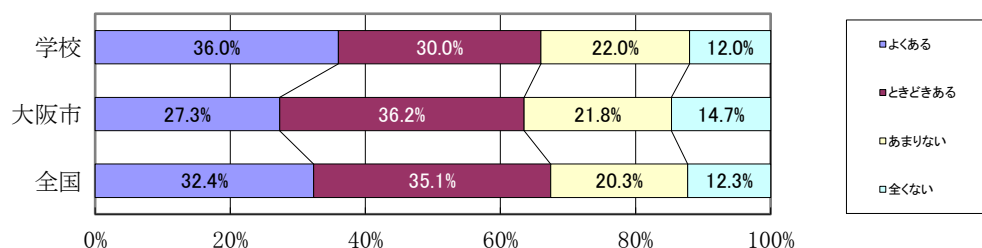
8

夕食は毎日食べますか。(学校が休みの日も含む)



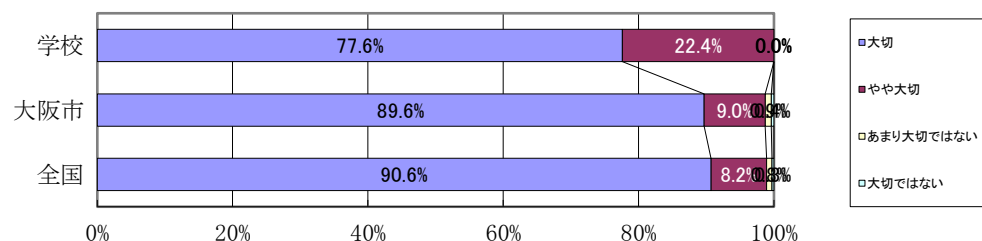
11

放課後や学校が休みの日に、運動部活動や地域のスポーツクラブ以外で運動やスポーツをすることができますか。



15

あなたが健康でいるために食事をしっかり取ることはどのくらい大切だと考えていますか。



成果と課題

「朝ごはんウィーク」の取り組みや、保護者の協力もあり、朝食・夕食を毎日食べる生徒の割合は多いです。しかし、朝食や夕食を食べない生徒の割合も一定数見られます。健康でいるために食事をしっかり取ることの大切さについて、否定的な回答はないものの、「やや大切」と感じている生徒が多いところが気になります。

今後の取組

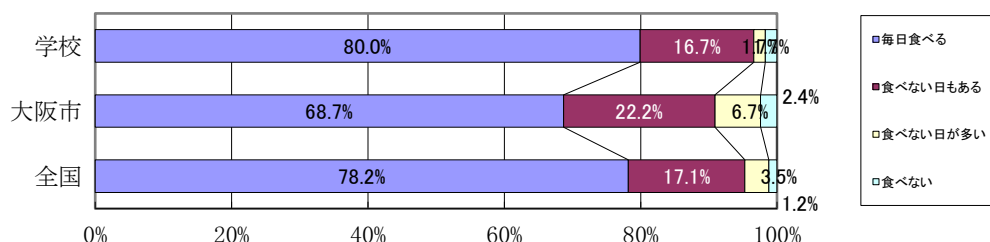
適切な朝食・昼食の摂取は健康のみならず、学力においても影響があるので、学校給食や家庭科・保健体育科などの教科と連携した学習を通じて、食育指導を推進します。また、専門的指導者やPTAなどとも連携し、食にかかわる講話や調理実習などにより、食事を取ることの大切さを感じてもらえるよう取り組みます。

ふだんの生活について（女子）

質問 番号 質問事項

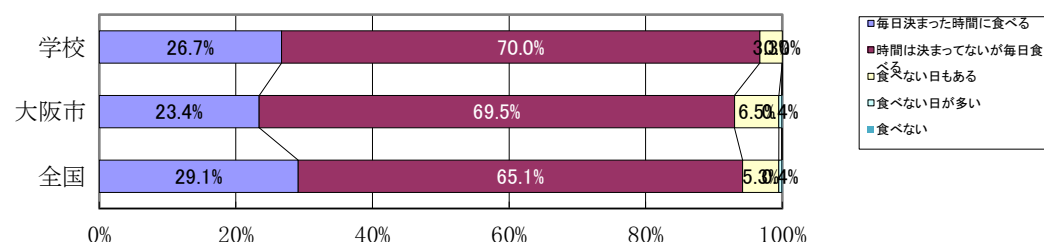
7

朝食は毎日食べますか。
(学校が休みの日も含む)



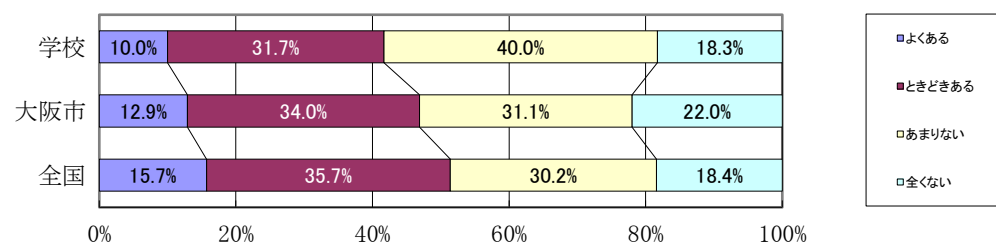
8

夕食は毎日食べますか。(学
校が休みの日も含む)



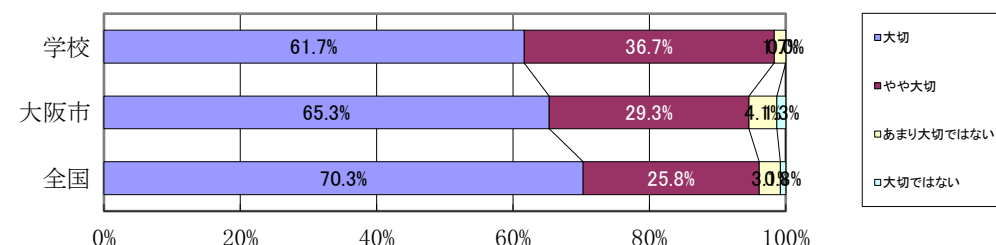
11

放課後や学校が休みの日に、
運動部活動や地域のスポーツ
クラブ以外で運動やスポーツ
をすることがありますか。



14

あなたが健康でいるために運
動を行うことはどのくらい大切
だと考えていますか。



成果と課題

「朝ごはんウィーク」の取り組みや、保護者の協力もあり、朝食・夕食を毎日食べる生徒の割合は多いです。しかし、放課後や学校が休みの日に、運動部活動や地域のスポーツクラブ以外で運動やスポーツをすることがある生徒や、健康出会いるために運動を行うことが「大切」だと感じる生徒の割合は低くみられます。

今後の取組

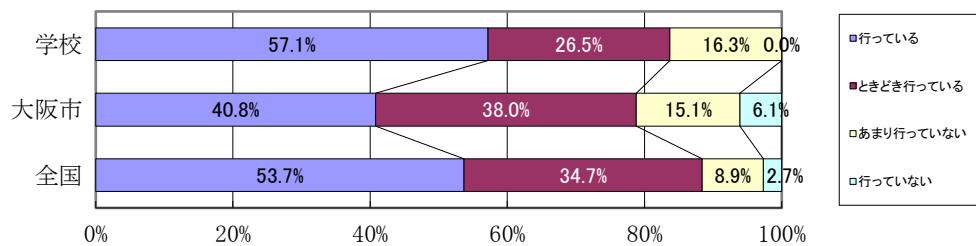
運動部活動や地域のスポーツクラブ以外でも運動やスポーツをすることが多い生徒は、「保健体育の授業が楽しい」と回答する生徒です。しかしながら、部活動やスポーツクラブでの活動が多いために、それ以外でのスポーツ活動が行われていないことも考えられます。適切な部活動の時間設定や、専門的指導者やトップアスリートの講話などの機会を設けるとともに、「授業が楽しい」と回答する生徒の割合を増やすよう、授業や部活動指導の工夫改善を行います。

保健体育の授業について（男子）

質問 番号 質問事項

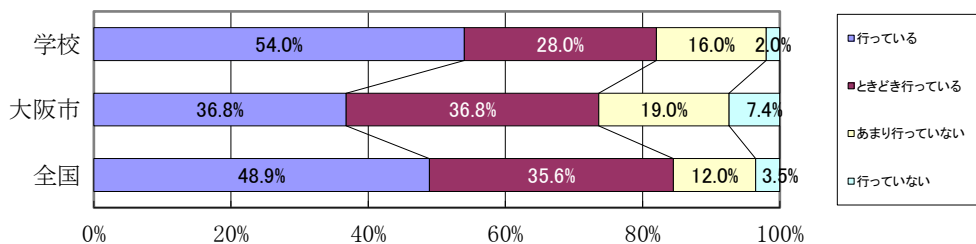
21

ふだんの保健体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか。



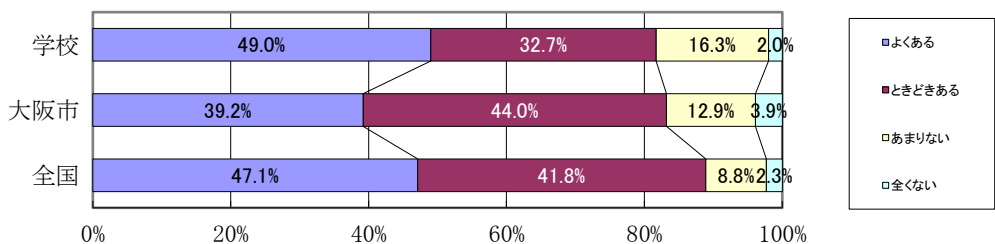
22

ふだんの保健体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか。



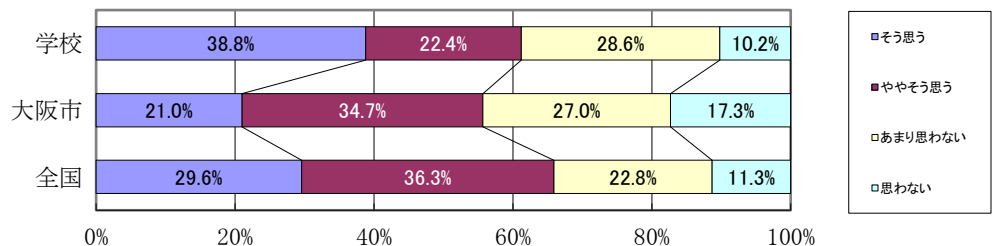
23

ふだんの保健体育の授業で、「わかる」ことで「できる」ようになったり、「できる」ことで「わかる」ようになったりしたことはありますか。



27

保健体育の授業で学んだことを、授業以外の時にも行ってみようと思いますか。



成果と課題

昨年度に比べると、「友だちと助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか」、「友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか」の問いに肯定的に答える生徒の割合は上昇しました。ICT機器の効果的な活用や授業規律の徹底も結果として表れています。しかし、「「わかる」ことで「できる」ようになったり、「できる」ことで「わかる」ようになったりしたことはありますか」の問いに肯定的に答える生徒の割合は全国よりも低い数値です。

今後の取組

今年度も、授業のめあてやまとめを明示することを徹底したが、「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」「できるようになるためのコツは何か」を、ポイントを押さえ、分かりやすい授業展開に努めます。

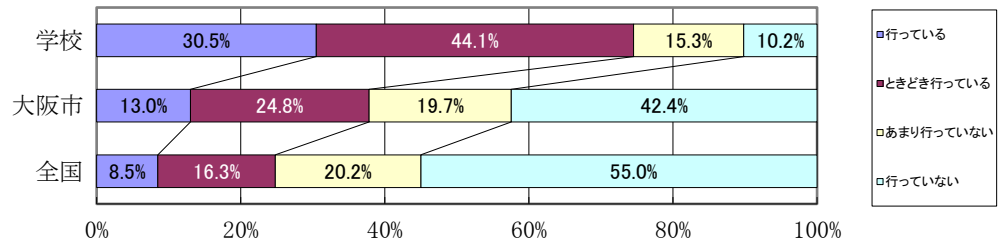
保健体育の授業について（女子）

質問
番号

質問事項

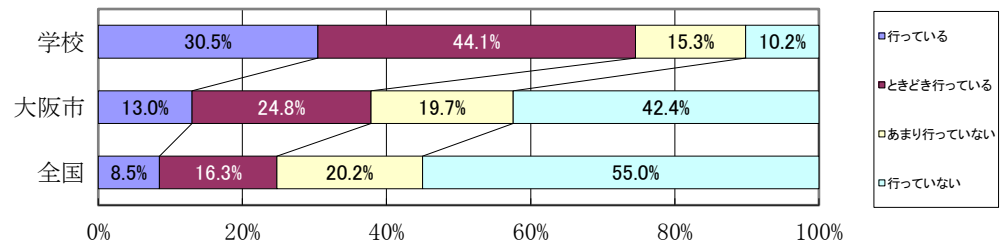
25

ふだんの保健体育の授業で、ビデオ・デジタルカメラ、タブレット端末などを用いて、自分や友達の動きを撮影して活用する活動を行っていますか。



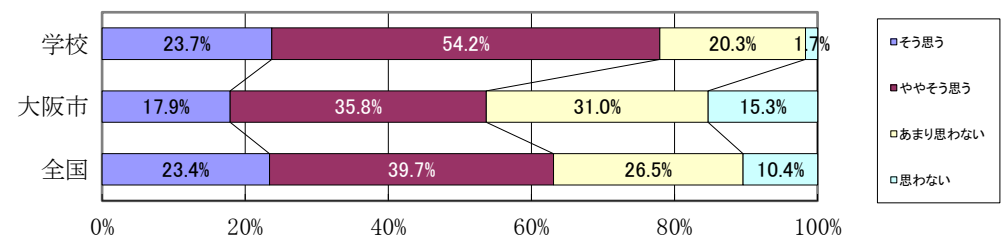
26

ふだんの保健体育の授業で、自分に合った練習や場を自分なりに選んで活動することを行っていますか。



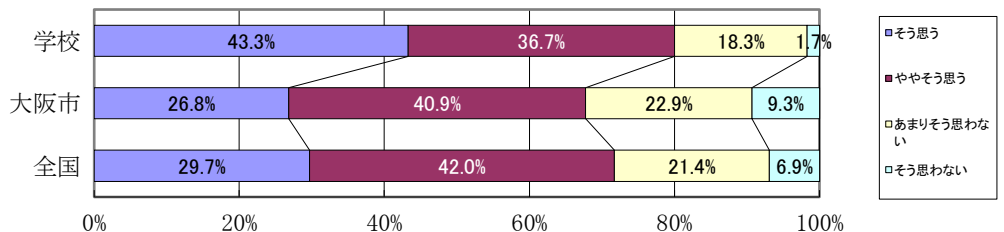
27

保健体育の授業で学んだことを、授業以外の時にも行ってみようと思いますか。



28

今、保健体育の授業で学習している内容は、あなたの将来に役に立つと思いますか。



成果と課題

グラフを見てわかるように、女子においては、授業で学んだことを他にも行ってみたい生徒、将来にも役に立つと思う生徒の割合が全国平均を大きく上回っています。また、ICT機器の効果的な活用や授業規律の徹底も結果として表れています。

今後の取組

今後更に「考え、議論する活動」「助け合い、それぞれの役割を果たすような活動」を意識した授業の工夫改善を行い、「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」「できるようになるためのコツは何か」を、ポイントを押さえ、分かりやすい授業展開に努めます。

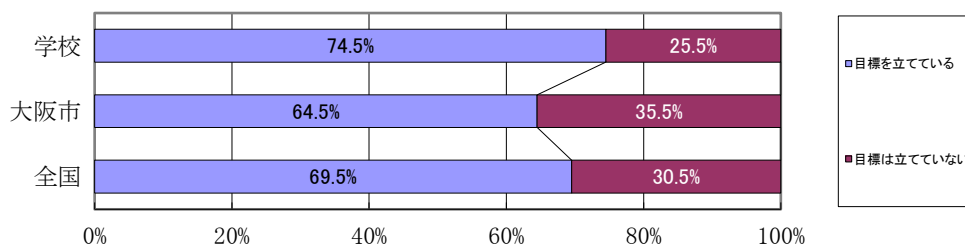
その他（男子）

質問
番号

質問事項

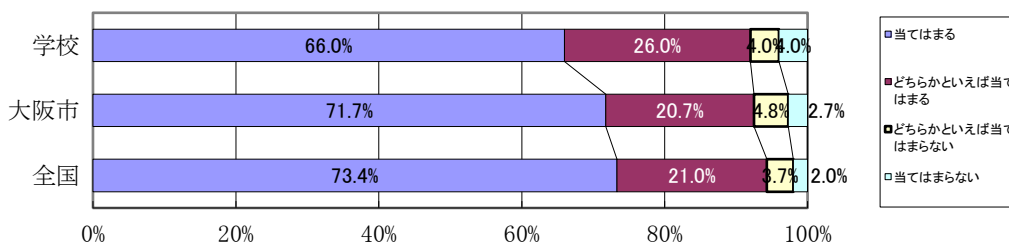
30

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか



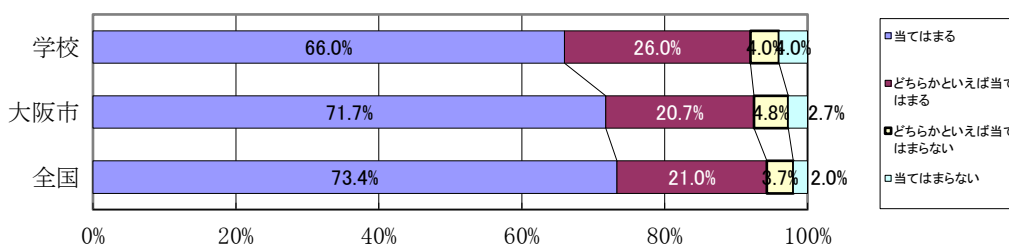
32

ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある



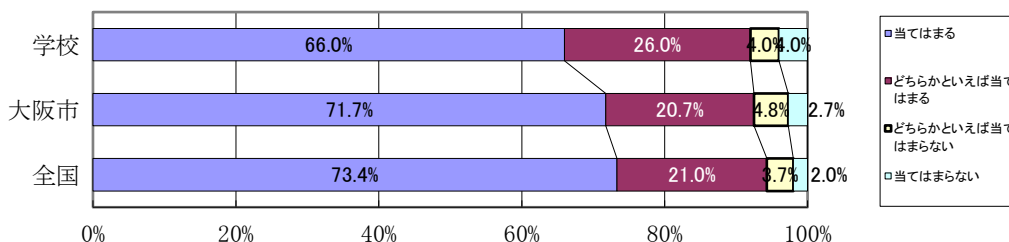
33

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している



34

自分には、よいところがあると思う



成果と課題

体力向上について、自分の目標をしっかりとたてている生徒の割合は高いです。しかし、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」、「自分には、よいところがあると思う」という問いに「当てはまる」と回答する生徒の割合が大阪市平均や全国平均に比べて低くなっています。生徒の自己肯定感を高め、恐れずに失敗できる授業や部活動の雰囲気づくりが必要です。

今後の取組

専門的指導者や高校など異校種との連携で運動やスポーツに関する講習を行い、最後までやり遂げる気持ちや失敗を恐れずに挑戦する気持ちを高めるとともに、授業や部活動、学年での取り組みなどの中で、互いを認め、応援し合い、失敗を恐れずに取り組めるように、教職員総体で見守り育む指導体制を確立します。

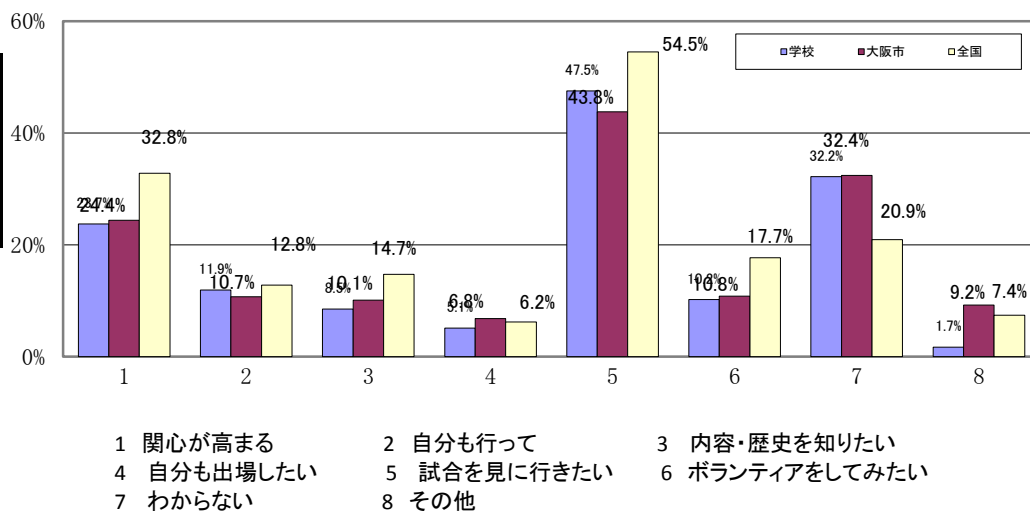
その他（女子）

質問
番号

質問事項

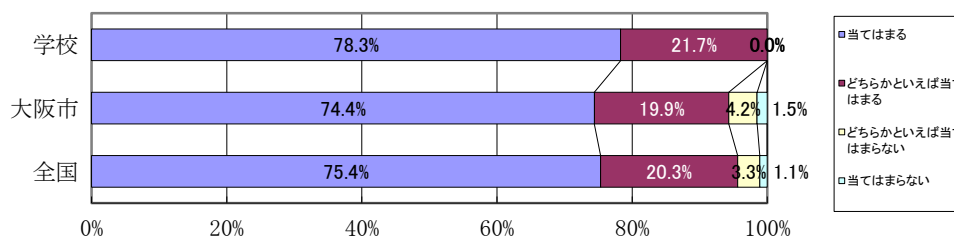
31

オリンピック・パラリンピックへの気持ち



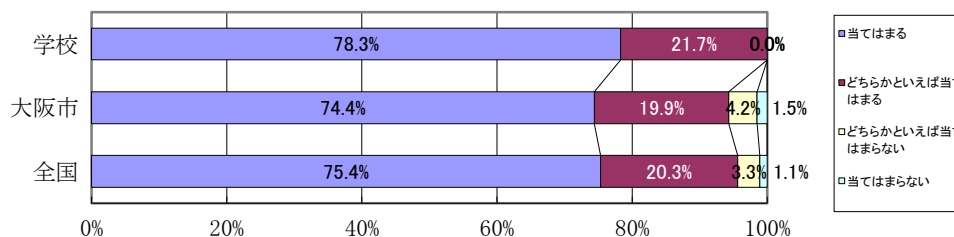
32

ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある



34

自分には、よいところがあると思う



成果と課題

女子では運動量についてはそれほど多くないですが、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」、「自分には、よいところがあると思う」の質問に「当てはまる」と回答する生徒の割合は大阪市平均や全国平均に比べ高く、男子に比べ、達成感や自己肯定感が高くなっています。

今後の取組

専門的指導者や高校など異校種との連携で運動やスポーツに関する講習を行い、オリンピックに興味を持ったり、生涯スポーツとして運動を続ける生徒を増やします。